

みまや小だより

やさしい子
かしこい子
たくましい子

いわき市立御厩小学校長 鈴木 英直

日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力に感謝申し上げます。

新学期が始まり、ほぼ1ヶ月が経過しました。新しい学年、新しい学級、新しい担任、新しい友だち、新しい学習など子どもたちの学校生活はどうでしょうか。

そんな生活の中で、様々な困難なことが生じるでしょう。新しい学年で責任も生じる立場になることもあり、新しい学級で自分の存在感に悩むことがあり、新しい担任の対応に困ることがあったり、新しい友だちとの人間関係に戸惑いを感じたり、学習に対して分からないと感じたりすることがあると思います。

さて、それを保護者の立場でどうすればよいでしょうか。

困難の克服

1 過干渉に気を付けて、子どもと適度な距離感を保つこと

子どものレジリエンスを育てるうえで、まず保護者が意識したいのは、子どもと適度な距離を保つことです。子どもが保護者からの管理や口出しを嫌うのは、自立に向かっている成長の表れでもあるから、子どもを手助けしすぎず、過干渉にならないようにすることが大切です。

「～しなさい」といった言い方で命令や指示をすることは、人は誰しも命令や指示をされると反発を覚えるものですから、ある程度子どもに任せることを実践してみましよう。その時はあらかじめ親子で話し合い、最低限のルールを決め、子どもに任せることです。

2 勉強時間をあらかじめ決めておき、その間は他の家族も協力して応援をすること

たとえば勉強時間であれば、「何時から何時まで勉強」などと決めておくこと、その時間が近付いたら「お、勉強の時間だ」と声をかけて、他の家族も読書など似たような過ごし方をして協力する。そうすることによって「自分だけががんばらなければならない」と孤独を感じずに、取り組みやすくなります。少し距離を置いて見守ることが、子どもの気づきを促し、自立をサポートすることにもつながります。

3 子どもへの声かけを「ネガティブ」から、すべて「ポジティブ」にしてい

子どもと適度な距離感を保つことは大切ですが、同時に、見守りながらも適切な声かけは必要です。そして、それは「ポジティブ」であることが重要です。

「ポジティブ」な声かけとは、子どものできていないことや短所を指摘するのではなく、今できていることに目をむけて、そこを認めた声かけのこと。子どもへの声かけからマイナスの言葉はできる限りなくして、すべて「ポジティブ」なものにしてみてください。

こうして、保護者が子どもの良かったところを探して声かけをすると、自ずと子どもも前向きになっていきます。こうした前向きな声かけの積み重ねが、子どもの「次、がんばるぞ!」という意欲や粘り強さにつながります。

4 粘り強く、子どもの育ちを長期的に見るおおらかさ

そこには、保護者が子どもの育ちを長期的に見る「おおらかさ」が必要です。目の前の子どもが物事がうまくいかずに投げ出しかけていても、前向きな声かけをしていくことは、ある意味で保護者の胆力が試されるのかもしれませんが、日常に実践していくことは難しいことですが、保護者が粘り強く前向きな声かけを積み重ね、子どもの育ちを長期的に見る「おおらかさ」を身につけていきたいものです。

5 ゴールを設定すること

子どもが困難なことに遭遇したら、克服した姿（ゴール）を設定させてみましょう。ゴールを設定することで、誰が何をすることが明確になり、「自分がどうするか」・「誰に何をしてもらおうか」を実践することにつながります。困難を克服できた経験を積み重ねることで、子どもは大きく成長することでしょう。

運動会・引渡訓練

いよいよ今週末、10日(土)運動会と引渡訓練が実施される予定です。天気予報では、あまりよくありませんが、子どもたちは本番に向けて、元気に練習しています。

10日(土)が晴れ・曇りの場合→実施
雨の場合→11日(日)に実施 ※学校は休み

←
11日(日)が晴れ・曇りの場合→実施
雨の場合→13日(火)以降に実施 ※通常の授業日(弁当持参)
※詳細は後日連絡

12日(月)は、いずれの場合でも学校は休み

※是非、5月10日(土)に実施できるように教職員一同願っておりますので、保護者の方々も願っていただければ幸いです。

※運動会当日はPTA役員の方々に、保健福祉センターでの駐車場係・児童看護係・会場警備係にてご協力をいただきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。